

事務局説明資料

令和元年11月29日
国土交通省 都市局

前回の議論

[行政職員の姿勢]

- **行政職員みずから現場を常に見て**、公共空間の利活用がもたらす変化を実感することが重要。職員による公共空間利活用の理解が進む。
また、公共空間の利用について、自己責任のもとで様々な活動を許容すべきである一方、行政も常に現場を見ることで、市民の安全・安心の確保が図られる。

[デザインと維持管理等との関係]

- 公共空間のデザインは、維持管理の難易、使いやすさ等、様々な観点がある中、最大の制約はコスト。その**制約の中で、優先順位を付け**、地域に応じたデザインを取り入れつつ、ベストを目指していくことが重要。
- **デザインと、使われ方、維持管理の難易等は、それぞれトレードオフ**の関係にあることにも留意が必要。また、シェアドスペースに関しては、様々な舗装のあり方、あるいは、安全性のモニタリング等についても留意が必要。

前回の議論

[ガイドライン策定に向けて]

- ガイドラインは、各種既存資料との違い等を整理した上で、その位置づけを明確化すべき。さらに、実際のプロジェクトの時系列的な動き等も示すべき。
また、自治体がこれを受け止めて、自らの都市で適用できやすいようなガイドラインとして取りまとめるべき。

[そのほか]

- パークレットは、デザイン・使い勝手等が良くも悪くもなりがちな一方、比較的容易に水平展開できる取組。マニュアルのようなものの整備、デザイン・安全性の両面からの合意形成等が重要。
- 指標について、カメラ等によるセンシングではまだ表情や姿勢は測れないところ、第5回で指標とともに、どのように計測するかについても議論したい。

第4回 “ 一 支えるーストリートを支える環境づくり ”

第1回資料再掲

1. 背景

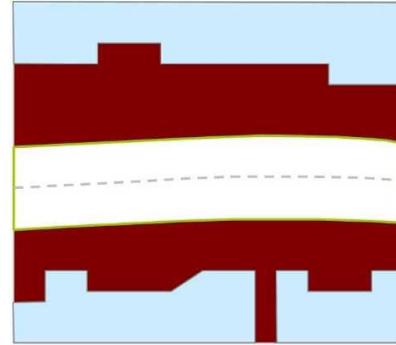
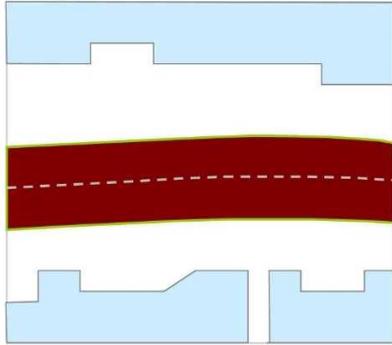
1)世界で進む、都市の「ウォークシフト」～

2)ウォークシフトの考え方への進化～リンク&プレイス

3)国内におけるウォークシフトの高まり

4)ウォークシフトに向けた政策展開

	<p>リンク=交通 移動するための「導管」としてのストリート</p> <p>設計目的: 時間を短縮</p>		<p>プレイス=空間 それ自身が「目的地」となるストリート</p> <p>設計目的: 時間を過ごす</p>
---	--	--	--



'LINK' AND 'PLACE': A NEW APPROACH TO STREET PLANNING AND DESIGN
Peter Jones, Centre for Transport Studies, UCL, London より抄訳

「リンク」としてのストリートの使われ方

様々な手段による移動:

- 自家用車、貨物車
- 公共交通
- 自転車
- 歩行者

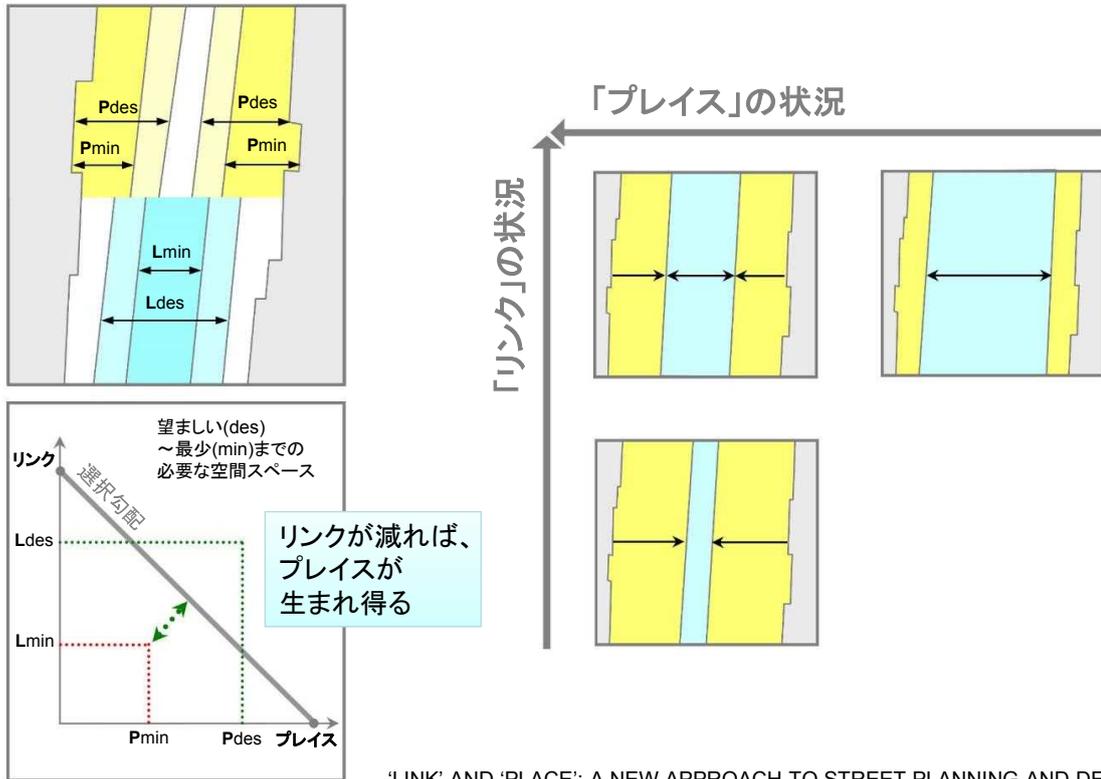


要は「人々の移動」

「プレイス」としてのストリートの使われ方

- 人々が立って、座って、観光して、
買い物して、商売して...
- パフォーマンス、パレード、
デモンストレーション...
- + クルマに関する活動としては
- 駐車
- 荷捌き

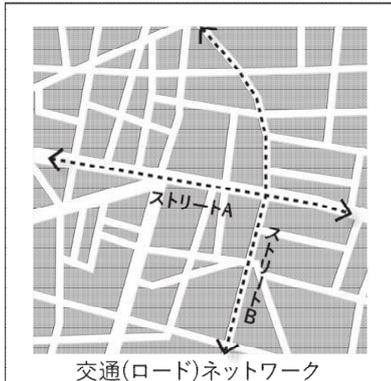
'LINK' AND 'PLACE': A NEW APPROACH TO STREET PLANNING AND DESIGN
Peter Jones, Centre for Transport Studies, UCL, London より抄訳



‘LINK’ AND ‘PLACE’: A NEW APPROACH TO STREET PLANNING AND DESIGN
Peter Jones, Centre for Transport Studies, UCL, London より抄訳

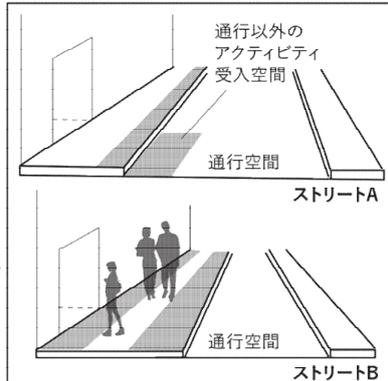
ストリートの空間を再配分するプロセス

① 交通ネットワーク内で
ストリートを位置付け、分類する



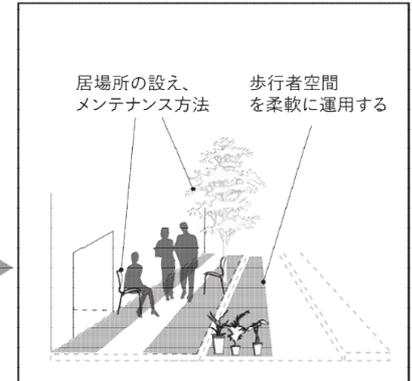
交通ネットワーク内で、通行以外の空間への本源需要を見出し、ゾーニングする。交通データだけでなく、沿道の建物用途やアメニティ、市民意見を判断材料とする。

② 位置付けられたストリートの
空間配分とデザインのガイド



沿道の都市活動の活性化に寄与する通行空間の公共交通・自転車優先のデザイン、通行以外のアクティビティ受入空間のデザインのパターンを示唆する。

③ 歩行者空間の設えや
利活用のマネジメント



歩行者のアクティビティを活性化させる現場のノウハウを示す。空間の質の診断や、マネジメントの担い手の人材育成にも対応する。



Before

・2019年5月、100時間連続で丸の内仲通りを歩行者空間化し芝生を敷設

After



Before

・車道を片側3→1車線に縮め、歩道を拡幅。
・歩道から自転車道を分離
・アーケードを撤去し、統一したデザインでファサード整備

After

・歩行者通行量が3千人から5.5千人へ増加。
・地価も下げ止まり、0.8%上昇





After

・周辺におけるホテル、マンション建設が活発化し、駅周辺の商業地地価は25%上昇（H31：全国7位）、商業床面積も増加

Before

・車道中心だった駅前空間を
トランジットモール化、歩行者
空間・芝生化し、民間の様々な
イベントの展開やインバウンド
増と相まって多様な人材が
集う空間へ転換



(出典) 姫路市提供資料 10

第4回 “ 一 支える一 ストリートを支える環境づくり ”

2. これからのストリートに 必要な要素とは

- 1) ストリート＝街路空間をどう定義するか
- 2) 街路空間のデザイン・有すべき設えについて
- 3) アクティビティと、これを担い支えるプレーヤー
- 4) これらの空間を支える交通環境等の確保

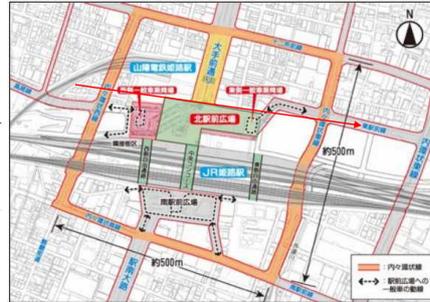
- ストリートのプレイス機能が確保されるためには、円滑な都市交通が損なわれないよう、交通の観点からの検討と、必要な周辺交通環境の対応が重要

周辺の交通処理 (事例:大手前通り 兵庫県姫路市)

環状道路網



内々環状道路



トランジットモールの導入



出典:姫路市HP

- 姫路駅を中心とする**3環状10放射の幹線道路網**により、通過交通を分散
- さらに姫路駅を中心とした約500m四方に**内々環状道路を整備**
- 内環状のさらに内側に内々環状をつくることで**駅前トランジットモール(一般車の通行禁止)**が可能に

- ストリートのプレイス機能が確保されるためには、通過交通のみならず、地域の荷捌きや駐車需要への対応も必要。

荷捌き需要への対応



- 例えば、円滑なストリート空間を確保するため、集約荷捌き駐車場を整備することで、路上荷さばきを低減させるような、交通面の対応も検討することが必要。

地域内での集約荷さばき場の様子

駐車需要への対応



- ストリートに面する1階部分の駐車場・駐輪場・車路の設置の制限や、隔地駐車場を認めるなど、連続した歩行空間を確保できるよう検討が必要。

ストリートに面して駐車場出入口を設けないよう配慮された様子

3. 主な論点(案)

問題意識

各都市において、ストリートの改変に踏み出そうとした際に、例えば、

- ① 意義及び効果 ~ ストリートの改変の必要性や、それが生み出す多面的な影響、
- ② 構成要素 ~ 沿道や周辺環境を踏まえた望ましいデザインや設え、
ストリートにおけるアクティビティや、これを担うプレイヤーのあり方、
- ③ 交通ネットワーク ~ 各街路それぞれの位置付けから、外周街路の活用をはじめ
交通再配分の考え方、駐車場の配置や出入口のあり方、

等について、一定の取りまとまったリソースが乏しく、模索を繰り返しているのが現状。

このようなことから、庁内での機運醸成から、庁内調整、さらには関係機関協議等において、アドホックな対応に苦慮している状況。

主な論点

- 1) ストリートを人間中心の空間へリノベーションしていく意義と効果とは？
- 2) ストリートの空間デザインや設えはどうあるべきか？
- 3) どのようなアクティビティを、どう運営していくべきか？
- 4) どうプレイヤーを選び、育て、支え、つなげていくべきか？
- 5) ストリートを支える交通環境をどのように考えるべきか？
- 6) ウォーカブルなまちなかのストリートはどう測り、評価していくべきか？

← 本日の主な
テーマ

主に地方公共団体向けのガイドラインとして、参考となる考え方や手順等を
取りまとめていく予定

14

ストリートデザイン懇談会の進め方(予定)

	テーマ	プレゼンター	日時
	— 総論 —		
第1回	これからのストリートに 求められるもの	事務局、三浦委員、泉山委員	8月29日(金) 13:00-15:00
	— 使う —		
第2回	都市生活を豊かにする アクティビティ	泉英明ゲスト委員、西村浩ゲスト委員 ハートビートプラン 代表取締役 ワークビジョンズ 代表取締役	10月1日(火) 13:00-15:00
	— 作る —		
第3回	居心地の良い歩きたくなる 公共空間デザイン	西村委員、栗本光太郎ゲスト委員 豊田市役所	10月29日(火) 15:00-17:00
	— 支える —		
第4回	ストリートを支える 環境づくり	藤村委員、羽藤英二ゲスト委員 東京大学大学院 工学系研究科 教授	11月29日(金) 13:00-15:00
	— 測る —		
第5回	人間中心の ストリートの評価	小嶋委員、事務局	12月18日(水) 10:00-12:00

中間とりまとめ公表 → ガイドライン発出へ

年度内